

令和6年度全国学力・学習状況調査 朝来市小学6年生と中学3年生の 学力と学習状況の分析結果



令和6年4月18日（木）実施

調査の概要

「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること、また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが目的です。

この調査によって測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面となります。さらに、テストではなく、調査と銘打たれていることから、正答率の高さではなく、考え方が定着しているかどうかを確認するためのものであると言えます。そして、出題構成は、学習指導要領がめざす授業づくりによって身に付けさせたい資質・能力に関するものが中心となっています。

調査内容（教科）

国語、算数・数学

調査結果の分析

小学生

国語

全国・県平均と同程度

算数

全国・県平均と同程度

中学生

国語

全国・県平均と同程度

数学

全国と同程度
県平均をやや下回る



小学校各教科の結果

国語

全国・県平均と同程度

定着傾向がみられる資質・能力

- 1 文中における主語と述語の関係を正しく捉えることができます。
- 2 情報と情報との関係付けの仕方や、語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができます。
- 3 資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができます。

課題があると考えられる資質・能力

- 1 物語の登場人物の心情や相互の関係などについて、叙述を基に正しく捉えることに課題があります。
- 2 物語の人物像や全体像を具体的に想像したり、表現の効果について考えたりすることに課題があります。

「読むこと」の設問において無回答率が高いことも課題の一つです。無回答を減らしていくためにも、書く活動を多く設定した授業展開が必要です。

小学校（国語）総括

1 授業づくりのユニバーサルデザイン化の促進

物語文の設定を正しく読み取っていく活動を充実させます。そのためには、デジタル教科書を活用して教材の提示の仕方を工夫しながら、視覚的にもわかりやすくすることが重要です。このことで、登場人物の特徴や話の展開を想像しやすくします。

個々の読みについて、登場人物の気持ちを読み取る学習活動では、どんな場合においても文中の叙述を根拠にした読みとなるように徹底した指導が必要です。また、対話活動を重視して、個々が読み取ったことを互いの意見を聞くことで深めさせていくことが重要です。

語彙力を高める方法としては、書く、話すなどの表現活動を全領域において随所に取り入れ、インターネット（ICT機器）や国語辞典などを活用して適切な表現を追究していきます。

2 読書活動の充実

教科書教材と関連した作品を読むことなどをきっかけに、読書に一層の興味を持たせ、さらには、目的や一定の条件（例：活字のみ）に沿った読書活動を進めていきます。

様々なジャンルの作品に子どもたちが触れ、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てることができるよう、身近な読書環境の工夫も重要です。

定着傾向がみられる資質・能力

- 1 数量の関係を、□を用いた式に表すことができます。
- 2 表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断することができます。

課題があると考えられる資質・能力

- 1 計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題があります。
- 2 球の直径の長さから、その球がぴったり入る立方体の体積を求めることに課題があります。
- 3 道のりと時間、速さの関係について考察し、それを言葉や数を用いて記述することに課題があります。

自分の言葉で筋道立てて説明することや記述することが課題だと認識しています。そのため、自分の考えを整理するための時間を十分に確保したり、整理した内容を説明し合ったりする活動を多く設定した授業展開が必要です。

小学校（算数）総括

- 1 授業づくりのユニバーサルデザイン化の促進
基本的な計算は定着していますが、国語科同様「書くこと」に課題が見られます。問題解決に必要な具体的な場面がイメージできていないことが考えられます。自分の考えを整理するとともに、必要な語句を用いて説明できることが重要となります。そのため、自分の考えを整理するための十分な時間の確保と、まとめたことを説明する授業展開の充実を目指します。
日々の学習の中で、単なる数の操作で終わることなく日常生活や社会につながる学習活動を推進していきます。
- 2 1人1台のタブレット端末の活用
授業の中で知識やスキルの習得に加え、考えたことを相手に伝える活動を増やしていきます。その一環として、1人1台のタブレット端末を有効に活用し、ペアやグループでの「学び合い」の場面を設定することで、定着と活用の一体化した授業づくりを進めていきます。



中学校各教科の結果

国語

全国・県平均と同程度

定着傾向がみられる資質・能力

- 1 資料を用いて、自分の考えをわかりやすく伝えることができています。
- 2 漢字の書体の一つである「行書体」の特徴について正しく理解できています。

課題があると考えられる資質・能力

- 1 目的や意図に応じて集めた材料を整理したり、表現の効果を考えたりするなど、自分の考えが明確に伝わるよう工夫することに課題があります。
- 2 話し合いの話題や展開を考えながら、他者の発言と自分の考えを結び付けて、うまくまとめていくことに課題があります。
- 3 短歌の内容について、描写を基に正しく捉えることに課題があります。

選択式・短答式・記述式のいずれの設問においても、全国や県と比較して無回答率が高いことも課題の一つです。そのため、自分の考えを説明し合ったり、書く活動を多く設定したりした授業展開が必要とされます。

中学校（国語）総括

1 授業づくりのユニバーサルデザイン化の促進

「①課題の設定 → ②情報の収集 → ③整理・分析 → ④まとめ・表現 → ①（新しい）課題の設定」という「探究的な学びのサイクル」の中でも、③整理・分析の活動に重点を置いた授業展開を推進します。そのために、目的に応じて収集した情報を取捨選択することや、思考ツールやICT機器を活用して視覚化することで、自分の考えや伝えたいことを明確にする活動に取り組みます。

整理した情報について自分の考えを持たせ、価値付けや互いの関連付けを図るような学習活動の時間を十分に確保することが必要です。

わかりやすく伝えるためには、

①伝えたいことの核となるテーマをしっかり意識させること

②自分の考えに明確な根拠を持たせ、聞き手が納得しながら聞ける内容を吟味させること

が重要です。

2 読書活動の充実

日頃の読書活動を通じて、以下の力の育成を目指します。

- ・語彙力を高め、その場に応じた適切な言葉が選べる力
- ・事象の因果関係を正確に捉え、常に根拠を持った考え方ができる力
- ・文章の構造に視点を置いた俯瞰的な読みができる力



数学

全国と同程度／県平均をやや下回る

定着傾向がみられる資質・能力

- 1 計算・関数・確率の各領域における基礎的・基本的な内容については、正しく理解し、身につけていると考えられます。
- 2 一次関数のグラフの傾きや交点の意味を、各事象に即して解釈できています。

課題があると考えられる資質・能力

- 1 目的に応じて式を変形し、その意味を読み取って事柄が成り立つ理由を説明することに課題があります。
- 2 複数の集団のデータを分析したものから傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。
- 3 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題に課題があります。
- 4 筋道を立てて考え、証明することに課題があります。

記述式の問題について、数学的に説明することや、図形の証明問題に苦手意識があるため、無回答が非常に多かったことが課題だと認識しています。そのため、自分の考えを説明する活動を多く設定した授業展開が必要です。

中学校（数学）総括

1 自分の言葉で説明する授業展開の充実

文字式や図形・データの活用等、公式や図形の性質など具体物を用いながら、説明をするための根拠となる基本的な内容についての理解を深めることが必要だと考えています。更には、それを用いて説明することができる力をつけるために、論理的に思考を組み立てる活動が必要と考えています。

自分の考えを持つための十分な時間を確保し、自分の考えを相手に説明するような授業展開の充実を目指します。

2 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

授業の中で、1人1台のタブレット端末を有効活用し、自分の考えを説明する場面を多く設定する授業づくりを進め、「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実を図っていきます。



今 後 に 向 け て

今年度の調査結果分析から、朝来市の児童生徒の学力については、基礎的・基本的な学力は小・中学校とも概ね定着していると考えられます。

しかし、課題とされる資質・能力については、その多くがここ数年同じであり、これまで以上の授業改善に関する取組が必要な状況が見受けられます。特に、「書くこと」と「無回答率の高さ」は、小・中学校共通の課題であり、その改善を目指して取り組むことが必要です。

本市では、「小小連携推進事業」や中学校区ごとの「小中連携推進事業」を実施して実践の共有と系統化を図るとともに、各校で同調査を分析し、抱える課題とその課題解決に向けた取組を協議し、学習状況の改善や教員の指導力の向上を図り、子どもたちの学習意欲や学力向上に取り組んでいます。今回の分析を基に、「自分の考えを整理するための時間の確保」や「書く活動を多く設定すること」、「自分の考えを説明し合う活動を多く設定すること」を重視した授業展開の充実に取り組んでいきます。

また、平成26年度から取り組んでいる「授業のユニバーサルデザイン化モデル研究事業」においては、「授業づくりのユニバーサルデザイン化事業」として進化させ、児童一人一人の学びやすさに通じる授業改善と1人1台のタブレット端末の活用を組み合わせることで「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実を図っています。さらに、今年度本市が作成した「授業づくりのユニバーサルデザイン化事業」に関する動画資料を活用した校内研修を実施し、子どもたちの声を生かした『生きる力』を育てる教育の充実を目指します。

今後も、学校運営協議会をはじめ地域の方々と協働して、朝来市の子どもたちが「分かる喜び」「できる喜び」を実感できる学校教育活動に取り組んでいきます。

お問い合わせ先

朝来市教育委員会事務局

学校教育課

TEL 079-672-4930

